

皆様、こんにちは。今回のテルマエ通信では各ゼミでの活動報告となっております。是非お楽しみください。

ゼミ紹介をする前に、突然ですが、皆様にご質問です。なぜこの新聞はテルマエ通信というのか？この疑問を持った方も多いと思います。え？お風呂通信？何故大学院でお風呂のことを・・・と思ってしまう方も多いでしょう。違います。このニューズレターの目的はゼミ間の横のつながりをつくるためにはじまったのです。なるほど！！と思われなかった方は、今回のテルマエ通信の最後に意味を載せましたので、お楽しみください。では、これから各ゼミの報告です。では、石山ゼミからよろしくお願いします♪

◆石山ゼミ

皆様の論文作成にも必見な！石山ゼミの活動紹介です。まず石山ゼミの到達目標としては、前月号でもお伝えしたとおり、ゼミ生各人の目指すゴールの形として論文の完成を掲げております。その上で、今回のテルマエ通信では、ゼミで取り組んでいる論文完成までに必要な具体的な活動を紹介します。

まずは論文に欠かせない「お作法」から始まります。いろいろと動き始める前に「お作法」をおさえることが、その後の課題認識や先行研究レビュー、リサーチ・クエスションにながってきます。ここで大事なことは、「お作法」を知識として知るだけではなく、「お作法」を踏まえた上でどのような手順で調査研究を進めるか、ゼミ内で多面的に見ていくわけです。また、それらを形にするための定量／定性の分析手法を具体的に実践していきます。論文を仕上げるために何をどう調査するか、その結果をどう取り扱うのか。これらを理解・イメージすることで、論文を自分のものとしてグラウンドデザインでしっかりととらえます。ゼミの時間を通して、M1は先輩方の論文作成を見て学び、M2は論文の仕上げに向けて軸にブレはないか再確認を行っていきます。

これ以外に、社会人大学院で論文を仕上げるために忘れてはいけないものがございますので、最後にお伝えします。それは「想い」と「仲間」です。社会人大学院として、一人一人がそれぞれの生活を持っており、挫折そうな時が来るかもしれません。そうした時に立ち返ることができる自分のスタート地点としての「想い」と、各自が綱渡りをする中、もし落下しても掬いあげてくれるネットの働き（ワーク）をしてくれる「仲間（ネットワーク）」の存在です。石山ゼミでも他ゼミと同じく、ゼミ内で懇親会を定期／不定期に行うなど、お互い刺激的に成長を楽しみ、「想い」と「仲間」を育んでいます。石山ゼミの今

後もど「づぞ」期待ください！

(古川千秋)



(ゼミ内における博士課程修了をお祝いして！)

◆上山ゼミ

上山ゼミでは、秋学期に静岡県静岡市に関する2件の取り組みを行いました。

1件目はゼミ横断プロジェクトとして、国際貿易港としての「物流港」から、市民が憩える「賑いの港づくり」への転換を進める静岡市の清水港周辺を調査しました。具体的には、海(港)と川(巴川)で囲まれた清水港周辺地区について、「どのような水辺空間・都市空間に創り上げていくのか」、「世界文化遺産となった富士山と構成遺産三保松原の景観も活かしながら、魅力ある観光地として、また交流憩いの場として、賑い創出に向けていかに取り組んでいくのか」といったテーマを検証しました。

晴天に恵まれた10月13日(日)の調査日当日は、「清水港マゲロまつり」の開催で賑わう

なかを地元関係者の案内の元、10カ所程度のスポットをまち歩きをしながら調査しました。結果、「都市空間・景観の整備」、「商店街活性化」、「観光視点」という観点での提言を盛り込んだ報告書を作成しました。

2件目は、10月26日(土)に開催された「まちづくり都市政策セミナー」において、ゼミ生のM1・牧田氏がトップバッターで登場し、「静岡市における”住民参加のまちづくり”に関する研究Ⅱ清水区庵原地域における取組みⅡ」と題したプレゼンテーションを行いました。

地域コミュニティの有志が参加できるまちづくり推進組織の重要性など4点の仮説を提示し、「地域防災」「地域包括ケア」「地域社会教育」といった社会的ニーズに応えられ

る、持続可能な地域自治組織の構築の必要性を提言しました。

ブレゼン用の資料作成についてゼミで討議を重ねました。提案内容はもちろん、視覚的に理解しやすい提案資料の作成方法を先生からご教示いただいたことはゼミ生全員のプロゼン能力の向上に役立ったと思います。

上山先生は他ゼミとの共同研究の意向をお持ちのため、様々なプロジェクトで皆様と一緒にすることを楽しみにしております。以上、上山ゼミの活動報告を終わります。



清水港周辺の視察風景

◆小峰・池永ゼミ

6月7〜8日、ゼミ合宿にて新潟県の蔵元吉野川さんを訪問させていただきました。私は酒税法改正は地方分権の成功例だと思っています。実はお酒にはけっこうな税金がかかっています。酒税法改正と地方分権の行方を自分なりに考察してみます。

そもそも酒税は江戸時代に徳川幕府によって酒造株が設定され、この株を取得した者のみに酒造が認められていました。明治4年には酒造株は政府に没収され、免許料を払えば自由に酒造が行えるようになりました。明治8年には免許税的な酒造営業税、売上税的な醸造税、請売営業税が課せられることになり、明治13年に酒の種類ごとの酒造免許税が酒造場ごとに課せられるようになりました。この時、酒税の国税に含める割合は17.3%でした。

そして昭和28年、酒税法全面改正が行われ、地方分権の第一歩を踏み出し、太平洋戦争後の特級、一級、二級の三段階から平成2年に導入された本醸造や純米酒などの特定名称へ変わり、級別は撤廃されました。

40年前はビールの値段の半分、日本酒は4割が税金だったけれど、これは1級酒の酒税であり、特級は4割以上が税金でした。特級というのは一番に品質が良い、味が良いと

は全く関係なく単に国税庁の監査を受け一番高い税金を払うと特級の称号を得られるというものにすぎなかったようです。

こうして地方の小さな蔵元は不利な条件でもがんばっていたが、酒税法改正にて地方に権限を取り戻すきっかけになり、美味しさよりも納税額や生産量などを優先した特級という曖昧な称号よりもはるかにこちらのほうが美味しいと言わんばかりに無鑑査で出したお酒がヒットし、地酒ブームが起きました。無意味な称号でなく本来の味と品質が全国に評価されるような仕組みになりました。知ってるようで知らない豆知識でした。(文責:望月 飛辰)



吉野川株式会社工場

製品

◆坂本ゼミ

坂本光司先生は「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者でもあります。ゼミには50名以上の学生が所属しており、過半数が企業経営者や取締役であり、毎回熱気にあふれる討議で3時間があったという間に過ぎてしまうほど。

先生は、「企業経営とは、企業に関わりのあるすべての人々の永遠の幸せを追求・実現するための活動である」と提唱されていて、企業経営の目的・使命は「人」を本当に大切にしたい経営を実践してきたかどうかであり、実践していれば、結果として業績は伸びてくる。ここでいう人とは、「社員とその家族」、「仕入先や協力工場で働く社外社員とその家族」。「現在顧客と未来顧客」「地域住民、とりわけ障がい者などの社会的弱者」「株主・出資者・支援者」を示し、このようなことを実践している企業を世に知らしめることで、それを目標にする企業が続いて現れてくれればと願っています。先生の「日本でいちばん大切にし

たい会社」シリーズや、「日本でいちばん大切にしたい大賞」もその一環。
ゼミでは、先生からは色々な企業情報や、ゼミ生が企業研究したことなどを発表することにより、情報を全員で共有しています。企業調査はホーム・ページで調べるのはもちろんのこと、現地に伺い、創業者やトップのお話しを伺うことが基本であり、本や記事に文章だけでは分からない事でも、現地に伺うことで初めて理解することや、その場がどのような空気かであるかを感じることもできます。企業訪問で本当に素晴らしい経営をされている経営者のお話しを伺った時などは、心からワクワクすると共に、感動で涙することも少なくありません。そして活き活きとしている社員の人たちを見ると、やり方次第でこのような素晴らしい社員や地元から愛される会社に行うことができるという勇気をいただきますが、こういう体験は、自分たちの本業や仕事で必ずプラスの方向へと働くことは間違いありません。ハードな研究室ではありますが、とてもやり甲斐を感じています。



坂本先生、サプライズハッピーバースデー、ゼミ懇親会にて

◆須藤ゼミ

須藤廣ゼミナールの活動報告をします。

前回のゼミナール紹介でも記載した通り、ゼミ生各自の研究に役立つような、「文献の輪読・書評」を中心に行っています。文献の輪読・書評を行うことで、知識や考え方を学ぶだけでなく、「良い論文を書くにはどうすればよいのか？」ということも考えることが出来ます。

文献の輪読の他に、ゼミ生の研究に役立つ地域を、ゼミ生のみんなでフィールドワークすることもあります。実際に、その地域を訪れることで、文献やメディアの情報だけでは知れない、場の空気感や地域の人々の声（本音）を知ることが出来ます。複数でフィールドワークすることにより、個人だけでは気付くことの出来ない新しい発見も多々あります。

また、学会やシンポジウムにも積極的に参加しています。学会やシンポジウムに参加することで、他大学の教授や院生と交流し、意見交換することで、知見を深めています。

須藤廣ゼミナールは、博士課程が2名、修士課程が3名の計5人です。少数のゼミナールである分、教授やゼミ生同士の距離が近く、論文の相談も親身になってくれます。今後とも須藤廣ゼミナールをよろしく願います。

(文責：垣迫聖章)

◆中嶋ゼミ

『テルマエ通信』読者の皆様、こんにちは。中嶋ゼミのゼミ長兼、編集委員の小林拓実です。

今号では、中嶋ゼミの活動報告をおこないたいと思います。現在中嶋ゼミ生全員は、修士論文の執筆に専念しており、大きな話題がありません。そのため昨年8月16日〜18日にかけておこなった中嶋ゼミの新潟合宿の様をお伝えしたいと思います。

合宿における一番のビッグイベントは、新潟県胎内市での「胎内市地域活性化まちづくり意見交換会」の開催でした。この意見交換会は、ゼミ生である佐藤さんの「故郷の胎内市を元気づけたい。」という熱い想いから実現したものです。短い準備期間であったにもかかわらず、中条町商工会様のご協力もあり、多くの方々にご参加頂きました。

会議では佐藤さんの司会進行のもと、胎内市の現状認識を住民の方に語って頂き、「胎内市の特産品として、何を推し進めていくべきか。」を中心に議論を進めました。胎内市は日本で初めての米粉専用工場がつくられたことから、「米粉発祥の地」と言っておりますが、その事実はあまり知られておりません。また、市町村合併の影響を受け、街全体がひとつになりきれっていない現状もあります。こうした中で、「住民の皆様が誇りに思える特産物」を生み出していくことは、そう簡単ではないと感じました。終了予定時間を過ぎても白熱

した議論は続き、第2回の意見交換会を実施する運びとなりました。

翌日からは、地域活性の成功例として知られる、越後妻有トリエンナーレ「大地の芸術祭」に行ってまいりました。「大地の芸術祭」は、越後妻有地域の里山を舞台に3年に1度開催される世界最大規模の国際芸術祭です。広範囲に渡って作品が展示され、一部の地域だけでなく、全体が活気づくような仕組みが施されており、非常に勉強になりました。

今回の意見交換会、および「大地の芸術祭」の記事や写真は、中嶋ゼミのFacebookページに掲載しております。URLは、<https://www.facebook.com/chikizukurii/>です。ページでは、ゼミが手掛けるプロジェクトだけでなく、地域づくり、地域ブランドディングに関する情報をお伝えしていきます。皆様に「いいね！」を押していただければ幸いです。

◆樋口ゼミ

私達樋口ゼミの前半はSSRについての研究を輪読会や各自気になっているテーマでプレゼンテーションなどを行った。勿論難しいテーマを延々と議論し合うだけでなく、ブレイクタイムを大切にし、ゼミの時間を有意義に過ごしています。



コーヒブレイク♪

今回のテーマはエビ。日本人のエビ好きが他国に影響を及ぼすという斬新なテーマです。

後半には学外での活動も多く、横断プロジェクトで長野県の空き家プロジェクト調査しにかけたり、中小企業家劇団の公演を戸越へ行きました。

長野県の空き家プロジェクトとはまさしく人と人とのつながりから生まれるソーシャルキャピタルの在り方について触れることができました。当日は信州大学の教授や商工会の皆様にも大変お世話になりました。またその足で、栗で有名な小布施町にだけ、町並み修景事業や地域活性化の在り方について触れ、住民や企業のまちおこしのスピリットを垣間見ることができました。

中小企業家劇団では、これも図ったかのようなソーシャルキャピタルがテーマであった。町おこしとは何なのか、地域活性のポイントは何が必要であるのか、これらの命題について我がゼミのCSRというフィルターを通して物事をみていく。樋口一清教授の「指導の下、我々ゼミ生一同も有意義な学びの生活を送ることができている。」



◆増淵ゼミ

増淵ゼミではこれまでにフィールドワークとして、岐阜県高山市、石川県金沢市、神奈川県藤沢市の3地域へ足を運びました。そこで今回は、それぞれの報告を行いたいと思います。

☆岐阜県高山市

岐阜県高山市は元々江戸幕府の天領であり、三町と呼ばれる旧市街を中心に古くからの町並みを残しています。そうした古くからの景観を残していることもあり、伝建地区にせ設定され、それを中心とした観光都市へと変貌しています。そこで、高山市の①インバウンド観光の戦略と効果 ②飛騨牛といった農産物での地域おこし ③テレビアニメ「氷菓」における聖地巡礼とその効果の調査を行いました。

☆石川県金沢市

石川県金沢市に存在する湯涌温泉は、石川県金沢市湯涌町、および湯涌荒屋町にある温泉です。金沢市東南部の中山間地域に位置しており、5分という場所に位置しています。この温泉が、人気アニメ『花咲くいろは』の舞台なったことで、注目を集めるようになりました。そこでフィールドワークを通して、温泉街がアニメの舞台になったいきさつや、その後の取り組み、その効果について観光協会の方や旅館の支配人の方に聴きとり調査を行いました。

☆神奈川県藤沢市

神奈川県藤沢市はアニメや映画、ドラマなどといった様々なコンテンツの舞台となっています。そこで、『コンツーマップー藤沢市編ー』に掲載されている各地の舞台や、その他の伝統文化財や名勝景勝地の現地調査を行いました。

当日は学部生の参加や他ゼミ生、また修了生の参加もあり、また現役ゼミ生の中にも中国人留学生を含んでいるなど、多種多様な背景をもつ参加者があつまったこともあり、視野を広げる、研究対象を異なったものになり、非常に有意義な一日になりました。

この日、様々な場所を巡りながら、参加者は他者からの解説を聞くだけでなく、各々個人的に携帯電話やタブレットで検索をかけて、その場所に合致する作品を探したりなどという活動を行いました。

【「テルマエ」とは？】

古代ローマの多くの都市に少なくとも一つの公衆浴場があり、社会生活の中心の一つになっていました。古代ローマ人にとって入浴は非常に重要だったそうです。彼らは一日のうち数時間をそこで過ごし、時には一日中いることもありました。裕福なローマ人が一人か複数人の奴隷を伴ってやってきたそうです。

このテルマエ通信は、そんな古代ローマ人にとって、「テルマエⅡ公共浴場」が社会生活の中心であったように、ゼミ代表者会議が中心となって政策創造研究科全体を「横に」繋げようという思いで始められました。